

デザイン農学科

1. 教育研究上の目的

本学科は、世界の食料問題、環境・資源・エネルギー問題を広く俯瞰しながら生物やその生産物の持つ多面的な機能性に注目し、その利用技術、新機能性製品の開発、食農システムの構築を通じ、豊かで持続的な社会・地域・生活を、農学的な発想・知識・技術をもってデザインし、実現していくことが出来る人材を養成する。

2. 教育目標

本学科は、上記の目的を踏まえ、次のような者を養成することを教育目標とする。

- (1) 農学を基盤として生物・生産物や農の多面的機能に関する幅広い知識と知恵を理解し、それを活かせる能力を有する者
- (2) 豊かで持続可能な社会を設計（デザイン）し、実現できる能力を有する者。

3. ディプロマ・ポリシー

デザイン農学科は、生物やその生産物の持つ多面的な機能性に注目し、その利用技術、新機能性製品の開発、食農システムの構築を通じ、豊かで持続的な社会・地域・生活をデザインし、実現させることのできる人材を輩出するため、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。

- (1) 生物および生産物が持つ多様な機能に関心を持ち、イノベーション農学の観点から潜在的な新機能を開発し、持続可能な社会の構築に利用できる能力を有している。
- (2) サステナビリティ農学の視点に基づいて、持続可能な食農システムや農業の多面的機能を活用したシステムをデザインし、社会実装することで豊かで持続可能な社会・地域・生活を構築していく能力を有している。

4. カリキュラム・ポリシー

デザイン農学科では、農学的な発想・知識・技術をもって、生物や生産物の新機能を開発する能力や食農問題を含めた社会のあり方をデザインする能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

- (1) 幅広い知識と深い思考力を総合化できる能力を養う科目を配当する。
- (2) 農業の多面的機能にかかわる現実社会の課題に対応できる能力を養う科目を配当する。
- (3) 持続的な食農システムの構築と福祉農業や ESD(Education for sustainable development)の実践にかかわる能力を養う科目を配当する。
- (4) 農学領域に利用されている自然科学、社会科学や人文科学を総合的に考察し、バランスのとれた判断を下すことが出来る能力を養う科目を配当する。
- (5) 主体的な学習や研究を行い、その成果を発信して相手を説得していくためのプレゼンテーション能力を養う科目を配当する。

5. アドミッション・ポリシー

デザイン農学科では、生物や農の多面的機能を利用して、豊かで持続可能な社会を構築していくことに意欲のある学生を求めています。

- (1) 自然科学の知識に留まらず、幅広い科目の基礎学力を身につけている。
- (2) 日本および世界が直面している社会的な課題に関心を持ち、その解決に貢献する意欲を有している。
- (3) 従来の生産科学に特化した農学ではなく、工学、医学、福祉、生活科学等の幅広い関連分野を含めて俯瞰的に学ぶ姿勢を有している。
- (4) 社会的な課題の本質を抽出し、その解決策を策定、実践、発信することができる。